

「18周年は収穫の年！」

～刈り取りの喜び～

詩篇126：1～6

■ 危機的な日本の教会

日本のキリスト教会は今、危機的な状況になっています。2030年までに沢山の教会が閉鎖することが予想されています。現在も2、3の教会を兼牧している牧師が沢山います。多くの神学校で入学者が減少していて、募集をやめた学校もあります。そのような状況の中で、アッセンブリーオブゴッド教団の運営する中央聖書神学校には沢山の生徒が入学しています。その多くがリバーサイドチャーチ岡山教会からです。危機的な日本の状況（Crisis=危機）をChrist（キリスト）がリバーサイドチャーチ岡山教会を通して変えてくださる事を信じます。

■ 闇の中に救いが訪れる

私（天野先生）のお兄さんはとても優秀な人でしたが、良い就職先が決まっていた時、自殺しました。親よりも先に子供が亡くなることは両親に大きな傷をもたらしました。その事によって家族はボロボロになりました。そんな中、知人の一人が聖書を持ってきてくれました。この世の宗教ではこのような不幸があったとき、因果応報を説きます。この不幸はあなたの犯した罪が原因ですというのです。私（天野先生）の母には思い当たるところがありました。様々な事情から子供を墮胎していたのです。

しかし聖書を手に取り読んで母はその中の一説「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。」（ヨハネ9章3節）の御言葉によってイエス・キリストを信じて救われました。真っ暗で希望のない所にいたと思っていたのですが、そのようなところにも神の救いが訪れました。ハレルヤ！

■ 大いなる喜び 詩編126編1節～3節

『【主】がシオンの繁栄を元どおりにされたとき、私たちは夢を見ていた者のようであった。そのとき、私たちの口は笑いで満たされ、私たちの舌は喜びの叫びで満たされた。そのとき、国々の間で、人々は言った。【主】は彼らのために大いなることをなされた。』【主】は私たちのために大いなることをなされ、私たちは喜んだ。』

エルサレムがバビロンによって滅ぼされ、人々が捕囚としてバビロンにつれて行かるといふ不幸に見舞われました。そのようなときに彼らは神に祈り叫びました。イスラエルの神はその祈りにこたえられる方であり、神はベルシャガババビロンを滅ぼし、イスラエルがバビロンの捕囚から解放されてエレミヤの預言が実現することになりました。その現実の中でこの詩編が歌われました。

■ 収穫と刈り取りの喜び

詩編126編4節～6節

『【主】よ。ネゲブの流れのように、私たちの繁栄を元どおりにしてください。涙とともに種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取ろう。種入れをかかえ、泣きながら出て行く者は、束をかかえ、喜び叫びながら帰って来る。』

イスラエルの神の選びの民は神様から種を蒔き続けるように指示されていきます。そして蒔いた種は豊かな実りをもたらします。この喜びがもつと満たされる様に。鬱積した悲しみ、痛みや苦しみに解放されると喜びと感謝であふれます。そしてこの喜びを与えられた私たちが、自分自身のこれからの生涯を通して、この喜びを他の人に分かちあい、喜びに満ちあふれる人が続々と起こされて行くことが、詩編126編の最も大きなテーマとなっています。

私たちが種を蒔くときに喜びの実を得て、私の内側が感謝であふれていきます。

「束をかかえ喜び叫びながら帰って来る。」（詩編126編6節）とありますが、私たち草加神召教会の元をたどるとアッセンブリーの最初の神召教会から同じ霊的な流れが及んで来ています。更に遡るとドイツ系アメリカ人のC・F・ジュルゲンセン師に遡ります。更に遡るとその元はドイツになります。さらにドイツ、ヨーロッパに至り、地中海沿岸の諸教会を通して最後はイスラエルまで遡ることが出来ます。皆さんはこのボタンを次の人に手渡さなければなりません。その事によってこの霊的な流れがどんどん大きくなり、やがて日本を勝ち取る事ができるようになります。

今回この教会に来るに当たって神様から示された事は、spiritual transformation をしろということでした。神様は霊的変革をするためにこの教会を選んだと言われています。霊的変革とは、イエスを知らない人がイエスを信じて、永遠の書に名が記され、地上においても神の豊かな祝福と幸いを得ながら人生を全うし、神の使命のために生かされる人が続々と起こされるということです。皆さんがその神の器です。

■ 聖霊の助けを受ける（ローマ14：17）

そのためには一人一人が聖霊の喜びに満たされることが必要です。聖霊の満たしを受けると人生の中で問題や困難が起こったとき、私たちの思いや感情を超えて神が働いてくださいます。そして霊的に全ての事を、考えとらえる事が出来る様になります。困難に出会ったとしても、神様は将来必ず良い事をされると信じる事で信仰の領域が強まります。たとえ問題にぶつかったとしても、問題に目を向けるのではなく、問題を解決して下さる神様の目を向けるようになるのです。

■ イエスがキリストである事をはっきりと宣言する

日本人のクリスチャンに欠けていることは何かを考えて見ると一つの事が言えます。日本のクリスチャンは非常に整えられているが、欠けているところが一つだけあります。それはイエスがキリストである事を宣言するという事です。

『そして、シラスとテモテがマケドニアから下って来ると、パウロはみことばを教えることに専念し、イエスがキリストであることを、ユダヤ人たちにはっきりと宣言した。』（使徒18章5節）

使徒の働きを見ると、イエス様の福音を聞いたほとんどの人が信じて洗礼を受けます。『会堂管理者クリスボは、一家をあげて主を信じた。また、多くのコリント人も聞いて信じ、バプテスマを受けた。』（使徒18章8節）そして「主イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家族も救われます。」という領域に入っていきます。そして神様がパウロに語られたことは『恐れなさい、語り続けなさい。黙ってはいけません。』（使徒8章9節）という言葉でした。私たちは恐れます。時に福音を語ることに躊躇します。しかし今、日本の教会で問題になっているのは、この恐れに縛られていることです。特に地方に行くとき人の目を気にすることが多いと思います。そして「和」を求めると、自分が突出した行動を出さないようにします。しかし、イエスを信じているクリスチャンは、この部分を神様によってきよめられ、神様によって整えられていってほしいのです。「恐れ」を英語聖書では「Fear」という言葉が使われています。新改訳聖書では「臆病の霊ではなく・・・」に用いられています。主が与えて下さる霊は臆病の霊ではありません。力と愛と慎みの霊です。恐れは霊から解放されるときに力が出て来ます。そして愛が現れていきます。大胆に恐れなさいと語り続けていただきたいと思います。

『神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。ですから、あなたは私たちの主をあかしすることや、私が主の囚人であることを恥じてはいけません。むしろ、神の力によって、福音のために私と苦しみを共にしてください。』（第二テモテ1章7～8節）

さいごに

18周年は収穫の年です。豊かな収穫を得るために一人一人が、イエスキリストが主である事を大胆に告白していきましょう。人々がイエス・キリストを信じる事が出来る様に、一人一人がキリストの証人になりましょう。

（要約者：日名 洋）

（2023年6月18日）